

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	集計結果	分析(成果と課題)及び来年度に向けて(改善策等)
1 地域の食や農業、環境問題に積極的に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の食・農・環境について関心を持ち、理解を深めるための講演会、研究発表会等を実施する。	全職員 各年次 各コース 各研究会	【成果指標】 ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まっている。	いしかわの食・農・環境について関心が高まった生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	おおおいに高まった 27.9% ある程度高まった 46.6% 関心が高まった合計 74.5%	「おおおいに高まった」27.9%と「ある程度高まった」46.6%を合わせると、74.5%であった。昨年度は、前者が22.3%、後者が38.4%、合計60.7%となっており、昨年度の数値を約14ポイント上回る結果となった。 学年別の結果は、1年次が72.7%、2年次が68.0%、3年次が84.2%となった。1年次には、農業科目「農業と環境」や「総合実習」での講演会等を通して、石川の食・農・環境について関心を喚起させる取り組みを行うことができた。2年次以降は、コース及び分野別に分かれるので、それぞれのコース及び分野の特徴を生かした授業や講演会等を企画し興味・関心が深まるよう努めたい。また、ロングホーム等特別活動の時間も有効に活用しながら年次でも興味関心をさらに高め、いしかわの食・農・環境に理解が深まるよう取り組んでいきたい。
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満			
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・翠星高校は食と農と環境の専門高校であるので、農業に関わる研究と商品開発を続けてほしい。JA松任は白山市とも連携しながら協力・支援していきたい。 ・ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まった生徒の割合が昨年度と比べ14ポイント以上数字が上がった。素晴らしいことだ。 ・環境美化に取り組んだ生徒の割合が昨年度と比べ向上している。社会に出てからも大切な素養であるため意識を高めていって欲しい。 						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した専門高校として、関係機関と連携しながら研究や商品開発等を進めていきたい。 ・ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まるように様々な機会を通して指導していきたい。 ・日々の清掃活動や環境美化運動を継続して実施していきたい。 						

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 2

2	学習意欲の向上と進路に応じた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	①	朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身につけると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。	教務課 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	翠星タイムを通して、基礎学力が向上したと思う生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	よく身についた 26.2% ある程度身についた 55.8% 身についた合計 82.0%	朝学習（翠星タイム）によって、基礎学力を身につけることができたかという問いに対し、「よく身についた」及び「ある程度身についた」と答えた生徒の割合が、8割を超え、B判定となった。判定は、昨年度に引き続き同じだが、中間報告の時点から2ポイントほど下降した。 年次別に見ると、1年次が89.9%、2年次が76.4%、3年次が79.8%となっている。1年次が特に高く、中学時の学び直しも含め基礎学力の向上を実感できた生徒が多かった。2・3年次では、進路に沿った学習を行っていることから、一般常識も含め基礎学力が向上したと思う生徒の割合が高くなっている。次年度は「スタディサプリ」を導入し、生徒個々に合わせた学習を定着させることで基礎学力向上がより一層実感できるよう取り組んでいきたい。	
		②	研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なICTの導入方法などを知ること、授業改善に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と感じている生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	分かりやすい授業が 8割以上 34.4% 6割以上 46.3% わかりやすい授業の合計 80.7%	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は、中間報告時の80.2%に対して、今回80.7%と高いレベルで安定している。授業内容と進度の関係もあるが、「分かりやすい」と満足している生徒が多数いることから、今後も教員の授業に対する工夫と改善の積み重ねが不可欠である。 今後とも、授業研究週間や公開授業等を積極的に活用するとともにICTを活用した授業の改善と工夫を進めていく。	
		③	3年間を見通し、各年次に応じた計画的・自律的な学習を行い、明確な進路目標を持ち、その実現のための意欲が旺盛な生徒を育成する。	進路指導課 各年次 各学科	【成果指標】 就職や進学において、生徒の進路実現を図る。	各学年に応じて、明確に進路目標を掲げた生徒、進路実現を達成した生徒が A 100%である B 95%以上100%未満である C 90%以上95%未満である D 90%未満である	B	明確な進路目標を掲げた生徒 1年生 94% 2年生 99% 3年生 98% 全体平均 97%	1・2年次生は12月の進路希望調査、3年次生は12月末日時点での進路決定状況の百分率が左記のようになっている。1年次生においては、進路を決めかね進路希望調査を提出しない生徒がいることから進路相談等に取り組み進路実現に向けて指導を行っていききたい。 今年度の最終評価はB判定であった。就職・進学の内訳を見ると、3年次生は約半々であったのに対し、1・2年次生では就職希望が約6割、進学希望が約4割であった。また、年度後半になり、進路目標が明確になったことは良いことである。次年度に向けて、進路実現を図るため粘り強く指導していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の取り組みは素晴らしいと思う。継続は力なりという。今後も基礎学力の定着のためしっかりと取り組んでほしい。 ・ICTの活用やわかりやすい授業の工夫など先生方は大変な苦勞をされていると思われる。身体を壊すことのないようオンとオフを上手に使い無理せず職務に励んでほしい。 ・今年度、模擬面接の面接官として協力させていただいた。2年生だが進路が明確になっている生徒が多いのに驚いた。日頃の進路指導の成果ではあろうが、生徒をしっかりとサポートしていただきたい。 ・進路の選択は人生の大きな岐路である。高校生活に満足し、胸を張って新たな進路に向かっていく生徒を支援していただきたい。 								
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を含め日々の学習活動を通して、生徒個々の基礎学力の向上に努めていきたい。 ・今後ともICTの効果的な活用による授業改善、学指導要領の改定に伴う評価方法の基準作りに努めていきたい。 ・生徒個々の進路実現に向けて、年次、コース・分野、進路指導課が連携し、組織的・計画的に取り組んでいく。 								

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）	
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。	① 教職員から積極的に挨拶を行い、始業・終業時の挨拶に統一を徹底する。登校指導でも指導する。また、農業クラブによる啓発活動を実施し、朝の挨拶への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 自発的に挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	いつも大きな声で挨拶をしている 34.4% 少しずつ大きな声で挨拶ができるようにしている 42.2% 自発的に大きな声で挨拶ができたことと答えた生徒の合計 76.6%	後期学校評価生徒アンケートの結果によると、いつも大きな声で挨拶をしていると答えた生徒が34.4%、少しずつ大きな声で挨拶をするようになってきたと答えた生徒は42.2%、挨拶はするが声はまだ小さいと答えた生徒が21.1%、ほとんど挨拶はしないと答えた生徒は2.4%となった。 前期より、若干ではあるが挨拶ができるようになってはいるが、まだ、目標の数値には達していない。登校時の挨拶についてはコロナ禍の中で大きな声で挨拶をするよう指導しづらい面もあり、徹底できていない。しかし、コロナ対応が若干緩和されたことで指導しやすくなってきている。挨拶しようという姿勢を正しくできるように今後も指導していきたい。	
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。また、農業クラブや公安委員会による啓発活動を実施し、無遅刻への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		B	しっかり身につけている 49.0% ある程度身につけている 37.8% 基本的な生活習慣が身に付いてと答えた生徒の合計 86.8%	後期学校評価生徒アンケートの結果によると、しっかり身につけていると答えた生徒が49.0%、ある程度身につけていると答えた生徒が37.8%、少しは身につけていると答えた生徒が9.9%、身につけているとは決していえないと答えた生徒が3.4%となった。 ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が身につけていると答えている。しかし、遅刻したり、服装の着こなしが良くない生徒が見受けられる。今年度はカード制指導を強化しており、来年度以降、指導の成果がしっかりと現れるように指導に努めていきたい。
	③ 集会・HRなど様々な機会を通して、自身の「あり方・生き方」について考え、学習するとともに、いじめ等の防止に繋げるため他者への敬愛と協力を尊重する姿勢や態度を育成する。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。	どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないとの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合が A 2%未満 B 2%以上4%未満 C 4%以上6%未満 D 6%以上			C	どのような理由があっても、いじめは絶対に許されないとの質問に「あてはまらない」と答えた生徒 4.6%
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や基本的な生活習慣の確立は社会人としての礎となる。いずれも高い数字となっていることは高く評価できる。学習だけでなく社会人としての様々な素養を身につけさせてほしい。 農業高校には、温かさやおおらかさがあると思う。のびのびとした環境のもと、生徒も学校も輝きを放てるように、一人ひとりの生徒を大切に育ててほしい。 いじめの問題はどこにでもある。生徒の様子に目を配り、適切に対応していただきたい。 							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行、遅刻指導など基本的な生活習慣の定着を目指して継続的な指導に取り組んでいく。 全教職員が生徒の様子に目を配り、早期発見と対応に努めるとともに、様々な機会を通して生徒を諭し根絶に向けた取り組みを行っていく。 							

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 4

4	タイムマネジメントに基づき、能率的な部活動や課外活動を推進し、活力ある学校づくりに取り組む。	①	ガイドライン内の活動時間であっても、講習会、講演会などを積極的に取り入れ、効率的に部活動や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が增加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	積極的に取り組んでいる 44.6% ある程度取り組んでいる 34.4% 課外活動に積極的に取り組んでいる生徒の合計 79.0%	生徒向けアンケートの結果によると「積極的に取り組んでいる」が44.6%、「ある程度積極的に取り組んでいる」が34.4%で、あわせて79.0%となり、B判定になった。 コロナ禍が明け、各部・研究会は活動を再開し、積極的な取り組みがみられるようになってきた。その結果、昨年度よりも大会や練習試合などの出場数が増え、好成績を残せる部・研究会も出てきた。 農業クラブ活動では、全国大会にプロジェクト発表会に1チーム、意見発表会に2名が北信越代表として出場するなど、大きな進展も見られた。 次年度もこれまで同様に、生徒や研究会が地域に根ざした活動を行い、積極的に活動できるよう学校をあげて取り組んでいきたい。	
		②	農業クラブ活動の内容を充実し、生徒の参加を通じて、その意義を理解させ、生徒の農業及び関連分野に対する関心及び学習意欲を高める。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【満足度指標】 農業クラブ活動への参加を通じて専門分野への学習意欲が高まった生徒が增加している。	農業クラブ活動への参加を通じて専門の分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	おおいに高まった 21.7% ある程度高まった 43.1% 農業や専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の合計 64.8%	生徒向けアンケートの結果によると「おおいに高まった」が21.7%、「ある程度高まった」が43.1%で、あわせて64.8%となり、中間評価時よりも3ポイント下落したもののB判定となった。 高等学校学習指導要領（農業科）に学校農業クラブ活動が指導項目として位置付けられており、学校農業クラブ活動は農業科全体で実施していくものである。今後も農業クラブ活動に対する関心の高まりを維持しつつ、農業科の教員だけでなく、普通科の教員の支援も得ながら全職員が一丸となって、農業クラブ活動や専門分野に対する学習意欲を高め、成果が現れるように努めていきたい。	
		③	統一的な取り組みや学校独自の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また次年度の効果的な取り組みのためにデータの分析・調査を進める。	全教職員	【成果指標】 働き方改革の意味合いを、職員が共有化し多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。	超過勤務ガイドライン上限45時間を下回る職員の割合が A 75%以上 B 60%以上75%未満 C 50%以上60%未満 D 50%未満	B	超過勤務ガイドライン上限である45時間を下回る職員の割合 61.4%	4月から12月までの9か月を集計したところ、45時間を下回った職員は、のべ261名（64.4%）であった。一方、過労死ラインの目安となる80時間を超えた職員が45名（11.1%）、そのうち100時間を超えた者が14名（3.5%）いた。昨年度よりは減少した。 長時間労働は国が掲げる働き方改革の中でも重要な課題のひとつであるが、本人や家族のためにもメリハリのある効率的な業務改革を勧め、今後とも少しでも超過勤務の軽減に努めていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 研究会活動をはじめとする農業クラブ活動を今後も積極的に取り組んでほしい。 学校の様子を知るには、ホームページからの情報が大切である。学校行事、授業や部活動など積極的に情報の発信を行ってほしい。 超過勤務時間が昨年度と比べ減少したことは好ましいことである。決して無理せず、生徒のために頑張っていたください。 								
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ホームページも一新したことから、部活動・研究会活動の様子や授業、学校行事等情報発信を行ってきたい。 喫緊の課題である多忙化の改善に向け、教職員の業務の見直しを積極的に推進し、時間外勤務の縮減に努めていきたい。 								